



学校だより

2024.8.27 No.140

〒674-8501 明石市魚住町西岡679-3

明石高専

<https://www.akashi.ac.jp>



創造工房オープン



本校Webサイトの創造工房に関するページはこちら
https://www.akashi.ac.jp/life/Creative_Studio.html

～ 目 次 ～

校長挨拶.....	2	入学生紹介.....	8
副校長より.....	3	編入学生紹介.....	9
施設長より.....	4	留学生紹介.....	10
学生相談室利用案内.....	5	後援会より.....	11
新任教員の挨拶.....	6	学生会より.....	11
退職教員より.....	7	校内短信・行事予定他.....	12

校長挨拶

図書館に行って本を読もう！

校長 土居 信数（どい のぶかず）

新聞の書評欄に、「俺たちの箱根駅伝 上・下」、池井戸潤著、文藝春秋の記事が紹介されていた。毎年、正月は箱根駅伝中継を観ることを楽しみにしている。かなりのファンで、スタート前からレース終了まで、テレビにかじりついている。例外的に、これだけはチャンネル権がある。今年は青山学院大学が優勝した。去年は駒澤大学だった。最近はこの2校がしのぎを削っているが、通算優勝回数は1位は中央大学の14回で、以下、2位早稲田大学13回、3位日本大学12回…と続いている。

箱根駅伝の正式名称は、東京箱根間往復大学駅伝競走で、箱根駅伝は俗称である。1920年に始まり、以来、戦争の影響で中止となった年を除いて、毎年、関東学生陸上競技連盟（関東学連）の主催で実施されている。東京大手町の読売新聞東京本社ビル前から、鶴見、戸塚、平塚、小田原の各中継所を経由し、箱根の芦ノ湖までを往復する。この全長217.1キロの往復コースを、10区間に分けて、10人の選手がタスキをつなぐ。

箱根駅伝に出場できるのは20校で、前年大会で成績上位の10位までの大学にはシード権が与えられる。それ以外は、同年10月に行われる予選会を勝ち抜かなければならない。予選会は、陸上自衛隊立川駐屯地を起点に、立川市街地を経由し、国営昭和記念公園までの約21キロのコースで行われる。12人までの登録選手のうち、上位10人の合計タイムの順位を競い、10位までの大学が本選に出場することができる。

本選に出場できなかった大学の選手は、これとは別に予選会の成績を参考にして、1チームだけ関東学生連合チーム（学生連合チーム）のメンバーとして参加することができる。ただし、学生連合チームはオープン参加で、チームとしても個人としても順位も付かなければ記録にも残らない。本書は、このもっとも目立たない存在の学生連合チームの挑戦を描いている。

著者の池井戸潤氏は人気作家で、主な著者に「半沢直樹」シリーズや「下町ロケット」シリーズなど数多くのベストセラーがあり、作品を読んだ人もいると思う。私は、原作のテレビドラマを観たことはあるが、作品を読むのは今回が初めてだった。

人気作家だけに文章は巧みで話しのテンポもよく、すぐに物語のなかに引き込まれてしまった。気が付くと、最後まで読んでいた。選手たちの本選に至るまでのさまざまな葛藤や、手に汗握るレース展開、チームのために全身全霊をかけてタスキをつないで走る姿の描写は、本番さながらのリアリティがあった。半年はやく正月が来たような感じだ。詳細はみなさんの楽しみを奪うといけないので割愛するが、幾度も涙腺が緩み読書を中断しなければならなかった。

また、駅伝中継を担当している番組制作者には、「スポーツ中継とは、競技の素晴らしさや面白さ、難しさ、そして人間ドラマをそのまま視聴者に届けるものであり、それ以上でも以下でもない」という番組哲学があり、さまざまな社内政治に翻弄されながらも、これを守り抜こうとする関係者たちの箱根駅伝愛と、プロフェッショナルとしての矜持に感動した。

いまさらであるが、こんなにまで人の心を引き付ける箱根駅伝の魅力はどこにあるのだろうか。その答えのヒントが、関東学生連合チームを率いる、甲斐真人監督が選手たちを前に話した言葉のなかにあった。

「本気で戦わないレースからは何も得られないということだ。雰囲気だけ味わいたいのなら、沿道で旗でも振ったほうがいい。逆に本気で戦った者にとって、本選が与えてくれる恩恵は計り知れない。持ち帰ってチームに伝えたい雰囲気や情報に止まらず、きっと君たちの今後の人生に役立つ、明確な何かを残してくれるはずだ。本気の挑戦にこそ、神が宿る。」

本気、本気、本気。アンダーラインは私が引いたが、本気の挑戦は周りに感動を与えるだけではなく、本人の成長を促す。ひたむきで一切の夾雑物（きょうざつぶつ）のない本気の挑戦こそが、われわれに感動を与える。箱根駅伝が多くの人を魅了する理由は、まさに「本気」にあるのではないか。みなさんも何かに本気で挑戦して欲しい。運動部や、文化部、コンテストなど何でもよいと思う。きっと、みなさんの人生を豊かにしてくれるだろう。

本書は図書館に備えている。学生だけではなく教職員のみなさんにも、ぜひ手に取ってほしい。本離れがいわれて久しい。町の本屋さんの数もずいぶん減っているそうだ。デジタルは便利で格好いいが、アナログもまたクールである。さあ、みなさん、図書館に行こう。そして、本を読もう！

副校長より

創造工房でアイデアを形に

教務主事 梶村 好宏（かじむら よしひろ）

明石高専創造工房は、学生の皆さんがいつでも自由に、アイデアを形にするためのものづくりやことづくりができる拠点として、令和6年3月にオープンしました。学生の皆さんが行き交う本校の中心に位置し、1Fには3Dプリンタやレーザーカッター、UVプリンタ、基板加工機、塗装スペースを整備し、2Fには、大型ディスプレイ、多数の湾曲ディスプレイを整備し、学生証をかざせばいつでも入室し、利用が可能です。3月のオープン以降、6月までにのべ約700名の皆さんが利用してくれました。3Dプリンタでは600点以上の創造物が製作されています。高専の使命は、地域や社会の問題を解決できる実践的・創造的技術者の育成であり、日ごろの皆さんの学習活動、課外活動における創造的活動をこの創造工房が支援し、試作などの試行錯誤を重ねて、よりよいものづくりに活用してもらいたいと思っています。5年間の高専生活の中で、何かにチャレンジしたいとき、ものづくりで行き詰ったとき、そうでなくても一度は工房を覗いてみてください。放課後には、1FではTA（ティーチングアシスタント）が皆さんをサポートしてくれますし、技術教育支援センターの職員の方もサポートしてくれています。そして私もできるだけ顔を出しています。いつでもどんなことでも相談に乗ります。偶発的な人との出会い、思いもかけないアイデアとの出会い、同じ思いを持った友との出会いがあるかもしれません。大いに活用してください。学外からの利用のご希望も大歓迎です。ホームページのお問い合わせ先からご連絡ください。

本で人生変わるのでしょうか？

学生主事 穂本 浩美（あきもと ひろみ）

教員室で話をしているときもヒロミはスマホを手放さない。ひっきりなしに連絡が入るのか、常に画面を気にしてせわしない。まるで冬眠をひかえた十一月のリスミたいだ。

「あのさ、人と話をしているときはスマホ触らない方がいいよ」

「すみません。手放せなくなっているんです。本当はもっと本とか読めばいいんですけど」

「本はいいよね。ここの本棚にもいろいろ本があるからよかったら貸してあげるよ」

ヒロミの視線はスマホ画面から本がぎっしりつまった本棚に移っている。

「あきもと先生の本棚には専門書はあまりないけど小説がたくさんありますね」

ひとこと多いこの女子学生は立ち上がると本を数冊抜き出した。

「カラマーゾフ？ 戦争と平和？ 月と六ペンス？ 何だか古めかしい本ばかりですね」

「でも一冊の本との出会いが人生を変えることだってあるよ。特に悩んでいるときとかに」

先生があまり熱心に言うからとりあえず聞いてあげます、といった調子でヒロミはスマホをおいた。

「あきもと先生の人生を変えた一冊ってどんな本ですか」

「実はそれを学校だよりに書いていたところ。発行されたら情報メディアセンターのページを読んでよ」

学寮の大夕焼に染まりたる

寮務主事 荒川 裕紀（あらかわ ひろのり）

私が明石高専に来てから、7年の年月が経ちました。その間に本校がどう変化したのかを考えてみたいと思います。入学者の地域別・性別分布などを見てみると、県外者や女性、そして留学生の比率が高まったことが分かります。国内外の様々な場所から自らの夢を実現させようと集まって来てくれた結果、在寮者数が増え、国籍も出身も様々な、グローバルフラッグシップ高専に相応しい、小さな地球が作られることになりました。

その輝ける皆さんに改めてお伝えしたいのは、共に暮らしていく上において、「コミュニケーションを欠かさないで欲しい」ということです。地域・年齢・性別・信条が多岐にわたる人間が共存・共生する際には、まずは対面でのコミュニケーションを活性化し、お互いを識ることが原則です。相互理解から信頼と友情が生まれます。お互いを認め合い、尊重し、協同することが出来た経験は、世界にて真に活躍できる基盤となっていくと信じています。

潮寮という、「小さな地球」に10代から住めるメリットを十二分に活かし、各々の成長に繋げていって欲しいと大いに願っています。規範とルールを守り、一人ひとりが未来に羽ばたける人間となりますように。



副校長より

Is this gag global common? 世界共通でしょうか？

専攻科長・研究主事 中西 寛（なかにし ひろし）

明石高専では、グローバル高専として英語ネイティブの教員を積極的に採用しています。専攻科でも英語による授業が充実してきました。今年赴任された教員の中には出身がシンガポール国立大学（National University of Singapore, NUS）の方がいます。言わずと知れた名門大学です。前職の時に訪問したことがあり、素晴らしい環境の大学で、学生たちも活発かつ優秀だったイメージがありました。当時在職の大学への留学生のリクルーティング活動の一環でしたので講演において、“Our university is the largest national university in Japan in terms of the number of students. However, your university has more students than that.” と話したところ、笑いととともに瞬時に”Japan has the many universities. Singapore has few.” と返されました。They also seem to be rich in wit. 赴任されたネイティブ教員もウイットに富むようですので、皆さんが英語の授業を楽しめるようになることを期待しています。ちなみに、国立高専(National Institute of Technology)には、それよりもさらに多くの学生が在籍しています。

施設長より

人生を変えた一冊の本

情報メディアセンター長 稲本 浩美（あきもと ひろみ）

情報メディアセンターには情報センターと図書館が併設されています。学生の皆さんにもっと図書館で過ごす時間を持ってもらいたくて、今年度は魅力ある図書館作りに取り組んでいます。図書館の中心は何といても本なので、今回は一冊の本を紹介します。

百年近く前にナポレオン・ヒルという方が書いた *Think and Grow Rich* という本があります。『思考は現実化する』というタイトルで翻訳本が書店に並んでいます。でも私が最初に手にしたのは『成功哲学』という題名で産業能率大学出版から出ている本でした。会社勤めを辞めて留学を考えていた二十六歳の頃に私はこの本に出会いました。人生の方向が定まらず悶々としていた時期に書店でこの本を見つけたのです。ここに答があるよ、と背表紙から声が聞こえてきそうな気持ちになったのを覚えています。

願望、信念、想像力、決断力、忍耐力、計画の組織化といった人生に必要なことが行間から染み入るように入ってきました。ほぼ寝ないで読み続けた翌朝、その本をぱたりと閉じた時に新しい人生が開けたような思いになりました。これからは明確な目標を定め、燃えるような願望をもって、計画を立てて忍耐力で立ち向かおう、と決心してから三十五年になろうとしています。人生どん底と感じたときに手にした本がその後の人生に影響を与えることもあります。皆さんがそんな良書に出会えることを願っています。

地元で愛される明石高専

テクノセンター長 田中 誠一（たなか せいいち）

テクノセンターは地域・企業・団体の相互支援の関係構築を通して、本校の魅力を高め、より地元で愛される明石高専を目指しています。昨年度は、イベント開催に制限が無くなったため、学外出展や産学連携交流会の開催など対面で情報交換する機会に恵まれました。多くの企業等からお声かけがあり、今も連携や支援の問い合わせを受けています。改めて本校の認知度の高さを実感しました。写真は地元企業との出会いで実現した特別講演の一幕です。一方、学内には知られていない特徴的な活動や研究シーズがまだまだあり、発信と交流による連携推進の必要性があるとも感じています。地域の信頼や期待に応えられるよう、今年度も引き続き体制を整えながら産学連携、地域貢献を進めていきます。



男女共同参画推進室より

男女共同参画推進室長 武田 字浦（たけだ なほ）

昨年度発足した男女共同参画推進室では、「全ての人々がキャリアアップし続けられる人生を歩めるように」を理念として、学生向け、教職員向け、そして未来の学生向けの三方向に対する取組を進めて参りました。

本校では、女子学生の割合が本科で28.3%、専攻科で22.7%とさらに増加し、3年生以下では30%を超えるようになりました。明石高専では、2015年の他高専との連携事業「高専女子ブランド発信事業」から始まり、2018年から活動を開始した「女子学生プロジェクトTAG」など、女子学生のキャリア支援につながる活動を続けてきました。今年度は、学外との協働企画も増え、特に、12月に開催予定の「高専女子フォーラムin関西2024」は本校が担当校となっていることから、ますます女子学生の活躍の場が広がります。

ただし、あくまで「男女共同参画」なので、それぞれの性別や立場、過去・現在・未来の環境を想定して、それぞれのキャリアアップを考え続けたいと思います。

施設長より

グローバル事業について

グローバルエデュケーションセンター長 水野 裕貴（みずの ゆうき）

2014年に本校が茨城高専とともに「グローバル高専モデル校」に指定されてから約10年が経過しました。今では新入生及びその保護者の半数以上が「グローバル事業」を受験動機の1つに挙げています。県外・国外からも多くの学生が明石高専を目指してくれるようになり喜ばしい限りです。今こうしてコロナ禍前と変わらない、又はそれ以上の活動が実行できているのは、この10年間の積み重ねがあるからです。海外協定校との強い絆は本校の強みです。

異なるバックグラウンドを持つ学生等とやり取りする中で、時にはもどかしく・もやもやする気持ちを抱えつつも、「何とかなる」という自信をつけてほしいと思いグローバル事業を進めています。世界は広く楽しく、時には厳しく、やりがいのある場所です。これから学生の皆さんの活躍する舞台は世界です。1年でも早く、1日でも早く、世界に出る準備運動として様々な国際交流の機会に挑戦してください。

○8月までの国際交流に関する主な動き

月	内容	受入元・派遣先等	人数	備考
4月	海外協定校からの生徒受入れ	デ・ラ・サール大学 付属高校（フィリピン）	10名	2または3年生の授業に参加（2週間）
	海外からの学生受入れ	フランス	1名	建築学科にてインターンシップ研修（3か月）
	海外協定校への学生派遣	ディポネゴロ大学 （インドネシア）	2名	招待を受けた同校での研修に参加（1週間）
5月	トビタテ高校生コース第	インドネシア、オラ	4名	第1-9期までの合計採択
6月	土居校長が高雄市政府教育局等を訪問	高雄市政府教育局、 高雄高級工業職業学	-	教育局长等と今後の連携につき意見交換
	トビタテ大学生コース第16期：1名採択	デンマーク	1名	2024年8月より1年間派遣
7月	海外協定校からの生徒受入れ	高雄市政府教育局 （台湾）	10名	主に建築学科の授業に参加（4週間）、ホーム



ディポネゴロ大学研修での集合写真



台湾生徒の建築実習の様子

学生相談室利用案内

学生相談室長 松塚 直樹（まつづか なおき）

学生相談室はみなさんが学生生活で抱える困りごとや悩みを一緒に考え、学生生活が少しでも爽やかなものになるようにお手伝いをしたいと思っています。学生相談室は保健室の隣にあります。どんなことでも構いませんので、困りごとや悩みがあれば学生相談室へ気軽に足を運んでみてください。授業期間中は基本的に週4日開室しており、4名のスクールカウンセラーにお越しいただいています。長期休業中の開室日・時間は相談室のホームページ（<https://www.akashi.ac.jp/counseling.html>）をご確認ください。もちろん、学生相談室員（教職員）にご相談いただくこともできます。学生相談室が学生のみなさんにとってよき相談場所になれるように努めてまいります。

[開室時間] 15:00 ~ 18:00

月曜日：守田カウンセラー

水曜日：横山カウンセラー

木曜日：森脇カウンセラー

金曜日：小野カウンセラー

[予約方法]

hoken@akashi.ac.jp にメールを送信

保健室で予約

[学生相談室員（教職員）]

松塚 直樹（機械工学科／相談室長）

加藤 隆弘（機械工学科）

平野 雅嗣（電気情報工学科）

渡部 守義（都市システム工学科）

工藤 和美（建築学科）

岡田 綾子（学生課）

福本 悟郎（学生課）

小西 蓉子（保健室）



学生相談室の雰囲気

新任教員の挨拶

ご挨拶

教養学群 小西 洋子 (こにし ようこ)

「文章は経国の大業にして、不朽の盛事なり（詩文は国を治める重要な大事業であり、永遠に朽ちない立派な事業である）」。魏の文帝（曹丕）が記した文学書、『典論』のこの一節は、文章経国思想と呼ばれます。この思想は、日本でも平安時代初期に取り入れられ、天皇の勅命で漢詩文集が編纂されました。平安時代では、この後も貴族の間で漢詩文が盛んに作られます。私は、このような平安時代の漢詩文を専門としています。

改めまして、4月より本校に着任いたしました。教科は国語、顧問はバレー部を担当しています。学生の皆さんには、授業を通して、新しい視点を見つけてもらいたいと思っています。さて、今年はオリンピックイヤー、またバレー部、ということで、最近『三島由紀夫スポーツ論集』（岩波文庫）を読みました。昭和39年東京オリンピックの観戦記が収められており、女子バレーもあります。高く投げ上げられたボールが落ちてくる時間を「運命の休止」、名セッターを「水鳥の指揮者」と称える、三島らしい表現が秀逸です。

ご挨拶

教養学群 島田 英彦 (しまだ ひでひこ)

4月に着任いたしました、島田英彦と申します。数学を英語で教える授業を担当しています。専門は理論物理学(超弦理論)です。本校の一員に加えていただくまで、ドイツ、デンマーク、岡山、筑波、沖縄、京都、合わせて19年研究員生活を送りました。

特に印象深いのはドイツでの一人暮らしの5年間です。片言のドイツ語で散髪に行くのが嫌で自分で散髪できるようになってしまったこと、研究所の食堂でひたすらにジャガイモがでたこと(マッシュポテト+茹でジャガイモのときもありました)などが思い出されます。その後ずっと共同研究を続けている親友をはじめ、多くの人々と出会えたことは、かけがえのない財産です。

業務や授業について、これでよいのか、どうしたらよいのか、悩みながらやっております。皆様に助けていただきまして深く感謝しております。

授業のときや研究室で、数学や物理について、学生の皆さんとお話できるのをとても楽しく感じています。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

「教学相長」を目指して

教養学群 林 礼剣 (リン レイショウ)

皆さん、はじめまして。4月より着任しました林です。2年2組担任で、主に「公共」「政治学」「法学概論」などの科目を担当しています。

中国の大学を卒業後来日し、大阪大学大学院法学研究科で政治学(アジア政治史)を学んでいました。博士課程修了後は、いくつかの大学で政治学、歴史学、法学、中国語学などの授業を担当し、様々な学問領域から幅広い教養を培うための「リベラルアーツ教育」を重視してきました。

中国の四書五経の一つである『礼記』(らいき)には「教学相長」(きょうがくあいちょうず)という四字熟語があります。「教えることと学ぶことは、お互いに補い合い、高め合うことである」という意味です。明石高専では「Co+work」をはじめ、アクティブラーニングを積極的に推進している姿勢に大変魅力を感じています。私に関わっているチームは、「金属加工」と「3Dモデリング」を班員が教え学び合い(文系の私は教えられる側ですが)、ともに「スキルアップ」することをテーマとしています。まさに「教学相長」の実践です。これからは、明石高専の一教員として、学生を教え、また学生から学び、学生の皆さんとともにチャレンジして成長し、お互いを高め合い、「教学相長」を目指していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

printf("Hello Akashi College!¥n");

機械工学科 MAUNG YE Swe Soe (マウンイエ スウィソウ)

Warmest greetings to everyone, I am Maung Ye from the department of Mechanical Engineering. I am very excited to have joined Akashi College this April. I currently teach Programming Applications and hope to impart my academic knowledge through various classes (Instrumentation Engineering, Energy Technology I) and research projects. I have interest in computational fluid dynamics subjects such as aircraft wing design, turbulence-induced vibrations and biological fluid flows. My PhD (National University of Singapore, 2016) and recent post-doctoral research (Riken, Kobe) was on blood flow in micro vessel networks and how new blood vessels form under the influence of these micro flows. I look forward to growing the confidence and ability of our students towards tackling challenging engineering problems through mastery of numerical engineering. Outside of teaching, I am one of the teachers assisting our baseball team and my hobbies include tennis, soccer and playing the guitar.

新任教員の挨拶

福井高専から異動で参りました

電気情報工学科 秋山 肇 (あきやま はじめ)

今春より明石高専に再雇用教員として赴任いたしました。月並みですが一筆ご挨拶申し上げたいと思います。私、出身は神戸で幼少期には須磨海岸で遊んでおりました。80年代のバブル期に電機会社のエンジニアとして働き始めたものの、阪神淡路の震災で九州に転勤となりました。その後、縁あって福井高専にて教員生活をスタートさせました。なんとか定年まで勤め切り、本校にて新たな職場を得た次第です。

思えば西日本を一周して関西に帰って来たわけですが、「電気」や「もの作り」をキーワードとしてこれまで様々な方々と交流したことで得られた経験知（と処世術？）を若い高専生の皆さんに伝えることができれば望外の喜びです。限られた期間ではありますがよろしく願い申し上げます。



退職教員より

より一層の業務効率化を

井上 一成 (いのうえ かずなり)

在籍中はたいへんお世話になりました。昨年まで電気情報工学科に所属しておりました。目まぐるしく変化する情報通信技術を取り入れ、講義や実験、研究室で紹介して参りました。とりわけ私が担当するネットワークやIoTは、近年技術革新が著しく、資料の追加修正に追われる日々でした。2年もすると陳腐化して使えない技術も多くありました。高専では講義や研究に加えて、クラブ活動や学寮など校務が多くあります。また近年は人の不足から教育研究の時間をじわりじわり圧迫しています。業務の改善は、各種委員会が中心となって取り組んでおられます。が、例えば私が担当した情報センターでは、セキュリティ強化など追加業務も発生し、効率化は必ずしも容易ではありませんでした。研究室の学生と向き合う時間を充分に取れず、申し訳ない気持ちになったこともあります。明石高専の一番の財産は、学生だと思います。DX導入など業務をより一層スリムにし、今後も誇示できる明石高専を推進していただきたいと思います。

御礼

石松 一仁 (いしまつ かずひと)

明石高専に6年間在籍し、さまざまなことを経験しましたが、大半は、苦しいな、と思っていました。しかし、着任時と退職時の自分を比べてみると成長を実感できますので、いずれも必要なプロセスでした。

私の趣味はマラソンですが、トレーニングは基本的に苦しいです。終わったら何を食べようかな、と毎回考えながら乗り越えています。苦しいトレーニングを避けると、大会で好記録は出ません。

何事も成長には苦しみが伴うと思います。職業や趣味等は、興味・関心を軸に自分の意思で選択しています。興味・関心のないことを選択すると、乗り越えられない苦しみが次から次に襲いかかってくるように感じ、最後は挫折します。

将来、本をたくさん書きたいです。そのために、専門性を高め、体力を維持する必要がある、それ相応の苦しみも伴うと覚悟していますが、たぶん大丈夫です。

この執筆が最後の明石高専の仕事です。新しい職場に馴染み、元気に過ごしています。本当にどうもありがとうございました。

貴重な日々

水島 あかね (みずしま あかね)

この春、大阪工業大学工学部建築学科に異動しました。朝晩ラッシュ時の満員電車で揺られながら、四季折々に変化する風景（特に須磨から塩屋にかけての海沿い）を眺められる14年間の通勤は贅沢な時間だったと思い返しています。小さな組織ゆえ学生と教職員の距離が近く、日常的に学科を超えた濃密な交流ができる環境も今思えば貴重でした。デザコンや部活動、担任などを通じて、授業外で頑張る学生と直に関わるうちに私自身もチャレンジする勇気を得ました。中でも教職員が一丸となって立ち上げたCo+workは、明石高専が長年培ってきた立場を超えて自由に議論ができる土壌がなければ導入は難しかったと思います。今は大海を必死で泳いでいるような毎日ですが、明石高専での経験を糧に引き続き研究・教育に取り組んでいきます。ぜひ学生の皆さんも自分で制限を設けず色々なことに挑戦してください。明石高専を卒業した時、様々な人たちと交流できる自由な雰囲気環境の素晴らしさに気づくと思います。最後になりましたが、これまでお世話になった全ての皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

入学生紹介

夢に向かって

機械工学科 1年2組 小篠 誌織 (おざさ しおり)

入学式からはや3ヶ月近く経ちました。

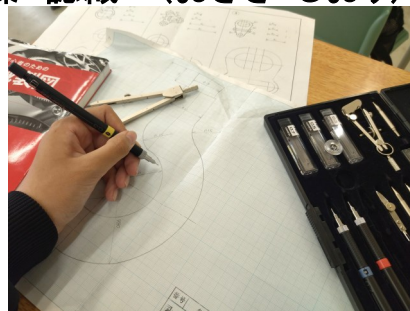
生活している中で実習や製図といった専門授業や一般教科の授業、部活などを通し、クラスメイトや先輩方の知識や手際の良さに日々驚かされるとともに、自分も頑張ろう、自分もあなりたいと熱い思いに駆られます。

同級生と会って最初に感じたのは自信と誇りでした。それぞれが自分に自信を持っていて、明石高専の学生であることに対する誇りが感じられたのです。誰一人欠けることなく全員が輝いていました。私も負けてられないと、入学式初日からさらなるやる気をもらいました。

クラスメイトや先輩方と話していると、「夢」という言葉がよく耳に入ってきました。一人ひとりが、たしかな夢や目標を持っていて、それを達成するために動いていました。出遅れていた私もそれに続こうとロボット工学研究部に所属し、少しずつですが、できることも増えてきています。

互いに人柄の探り合いで距離のあった周囲との仲も自然と深まり、有意義な日々が続いています。

私は将来、宇宙工学の分野に関わりたいという夢があります。製図や実習、一般科目や部活でも、分からないことや失敗ばかりです。ですが、その度に多くの人に助けられ、乗り越えることができています。それぞれの夢を追いかけている多くの学生に続いて私も夢に向かって努力し、同時に、私がそうしてもらっているように誰かに力を与えられるような人になることを目指しています。



明石高専に入学して

電気情報工学科 1年1組 高瀬 零音 (たかせ れおん)

あっという間に春休みを終え、迎えた緊張の入学式。中学校の友達は一人もいない中、僕は晴れて明石高専に入学しました。今までは学科ごとに分けられていたクラスも最近混合学級になり、ほかの学科の人たちとの関りも多く、すぐに様々な学科の友達が出来ました。入学前は上手くなじめるか不安でしたが、特に何の問題もなくなじむことができ、今も学科を問わず幅広い友人関係を築いています。

僕は、「ゲームを作りたい」という夢を抱いてこの学校に入学しました。高専とは、高校生の年齢から専門科目を学べる、言わばエンジニアの育成に特化した素晴らしい教育機関です。そんな特別な環境に身を置けることに感謝し、夢を叶える為に一生懸命に努力していきます。

では具体的に何をしたいのか。僕はある先生から「高専は自分から行動すればとても面白い学校だ。しかし、何もしなければ面白くない。」という言葉を受けました。確かに何もなくても卒業は出来るでしょう。しかし、留学制度や3Dプリンターなどが整えられているこの学校で、何もしない選択肢はありません。僕が作りたいゲームはただのゲームではありません。グローバル化していく社会の波に乗って、世界に進出できるゲームを作りたい。そのためにも、留学して世界の言葉やニーズを知ったり、世界で認めてもらえる技術を身につけたい。これこそ、僕が明石高専に入学した理由であり、これからここでやっていきたいことです。

受験、入学、その後

都市システム工学科 1年3組 森 千晶 (もり ちあき)

私は4月に都市システム工学科に入学しました。

私が明石高専のことを知ったのは、中学3年生の9月頃でした。寮生活に少し興味があったので、母に相談してみたところ、明石高専について教えてくれました。調べていくと、制服がなかったり、体育では好きな種目ができたりと自由な校風が自分に合っていると感じました。また、早くから専門的なことを学べるため、自分の夢への近道になると思い受験することを決めました。

目指し始める時期が遅かったため、急いで公開講座に申し込むなどして、参加できるイベントにはなるべく参加し、明石高専についてもっと知ろうと思いました。中でも高専祭は、地元の高校ではあまり行われていない食品バザーや学科ならではの展示が行われていて、感じたことのないワクワク感があり、学生として参加してみたいと思いました。それ以来、明石高専に入りたいという気持ちがより一層強くなり、頑張った結果、何とか合格することができました。

クラスは混合学級で皆勉強が得意でついていけないこともあります。負けないように頑張りたいです。現在は寮生、剣道部に仲間入りし、充実した日々を送っています。

寮生活では、最初は緊張していましたが、面白い先輩達と愉快的仲間達のおかげで馴染むことができ、とても楽しく過ごせています。

クラスも寮も終わりは来てしまいますが、だからこそ一つ一つの時間を大切に、今を目一杯楽しみたいです。

入学生紹介

入学後

建築学科 1年4組 村川 咲良（むらかわ さら）

念願の高専生活への期待と不安を胸に迎えた入学式からあっという間に3ヶ月が過ぎました。日々新しいことを吸収していくのに夢中になっています。

私は建築学科に所属しており、製図から始めて模型を作ったり、構造について学んだりしています。製図道具の名前さえ分からなかった3ヶ月前の自分から少し成長したように感じます。

一生懸命取り組んでいることは勉強以外にもいくつかあります。読書、スポーツといった趣味、部活動などに熱中しており、特に中学校から続けているバドミントン部では大会や試合に向けて日々、練習に励んでいます。部活動の先輩やクラスメイト、寮生など多くの繋がりができ、充実した毎日を過ごせています。ここで出会ったたくさんの多彩な人達は自分も負けまいと必死になれる特別な存在となりました。

私は高専に来て挑戦したいことができました。その1つが留学です。英語力を身につけることはもちろん、自分の世界を広げたいというのが大きな理由です。明石高専では短期留学、長期留学の双方ともに取り組みやすい環境が整っており、大きな魅力を感じています。今では留学したいという思いが勉強のモチベーションの一部となっています。この気持ちを忘れずに日々勉強に励んでいきたいです。

私は好きなことを学び、追求できるこの環境が大好きです。これからどんな人に出会えるか、どんなことが学べるか、どんなことに挑戦できるか楽しみにしています。

編入学生紹介

明石高専に編入した感想

建築学科 4年 岸本 颯馬（きしもと そうま）

明石高専の建築学科に編入して3ヶ月が経ちました。この期間で、私の学びは飛躍的に広がり、専門知識も深まりました。授業は構造力学や建築材料、設計演習などの専門科目だけでなく、環境工学や建築史も含まれており、建築の基礎から応用まで体系的に学ぶことができます。構造力学では建物の安全性確保の理論を学びました。実習や演習では、理論に加えて実践的なスキルも身につけました。設計演習では図面を描いたり、模型を作成したりする過程で、アイデアを具体的に形にする楽しさと難しさを実感し、創造力と技術力を同時に鍛えることができました。教授陣の丁寧な指導のおかげで、個々の理解度に応じた学びを進めることができ、自分のペースで知識を深めることができました。また、クラスメイトとの共同作業を通じてチームワークの重要性も学びました。異なる背景を持つ仲間と意見を交換しながらプロジェクトを進めることで、多角的な視点を持つことができ、将来の職業生活においても役立つと感じています。学校の設備も非常に充実しており、最新のCADソフトウェアを使う機会が多く、現代の建築設計に必要なスキルを体験しながら学ぶことができました。この3ヶ月間は非常に充実した時間であり、自分の成長を実感しています。今後も努力を続け、知識と技術の向上を目指していきたいと思えます。

温かい学校生活

建築学科 4年 丹野 裕己（たんの ゆうき）

建築学科4年の丹野裕己です。私は、大阪府立都島工業高等学校から編入してきました。高校では建築を学んでいて、実習が高専よりも多いという面が特徴の学校です。例えば、実際に木材を加工して組んだり、鉄パイプで足場を組んだり、溶接などをします。高専には、さらに高度な学びを望んで編入を希望しました。高専は、レベルが高く、生徒も皆忙しく、マイペースな私は、馴染めないかもしれないと少し不安でした。しかし、いざ編入してみれば、抱いていた印象が180度変わりました。編入当初から温かく迎え入れてくれ、何もわからない私をどの学生も一から丁寧に教えてくれました。特に、慣れるのが遅くて、よくミスをしてしまう私を手助けしてくれる4Aの学生の皆さんには、毎日たくさんのことで本当にお世話になっています。また、他学年との共同作業である、「C o + w o r k」という授業でも、メンバーの全員がとても親切で、楽しく活動することができています。また、先生方も非常に親しみやすい先生ばかりで、勉強があまりできない私を、すごく気にかけてくださいます。ここで、改めて皆様へ感謝をお伝えしたいです。私は多くの人に支えられながらの高専生活ではありますが、毎日学校に行くことがとても楽しみです。授業や課題はまだまだ難しいですが、充実した日々を過ごせています。これからも、この明石高専という素晴らしい環境を大切にしながら、しっかりと学びを得ていきたいです。

留学生紹介

Can't Hurt Me

電気情報工学科 3年 KURNIAWAN MUKHAMMAD DRAJAT (アワノ)

明石高専に立っていると、ここに至る道のりを思い返さずにはいられない。決して楽な道のりではなかった。インドネシアの低所得家庭で育ち、教育は決して当たり前のものではなかった。明るい未来を夢見てひたすら勉強に励んできた。

MEXT奨学金の面接で最も心に残った質問は「なぜ大学ではなく高専を選んだのか？」というものであった。私の答えはシンプルで、「成長」であった。大学での学びは素晴らしい基盤であったが、私はより実践的で没入型の学習環境を求めている。

日本に来ることは簡単ではなかった。語学学校の最初の1年は目を見張るものがあった。吃音の影響で社会不安が残り、日常の交流が挑戦であった。しかし、ウガンダ出身の友人サリムが助けてくれた。彼は私にフィットネスの世界を紹介し、それは体だけでなく心も強くするものであった。デイビッド・ゴギンズの「恐ろしいものに向かっていく」という言葉が私の信条となった。かつては悪夢であった人前でスピーチが、恐怖に立ち向かう機会となった。日本語スピーチコンテストは勝利こそなかったが、私の進歩の証であった。

今、明石高専で次の成長段階に進む準備ができています。電気工学には常に興味を持っており、技術的な側面に深く取り組むことを楽しみにしている。学業だけでなく、フィットネスの旅も続け、例えばマラソンを走るといった具体的な目標を設定したいと考えている。社会的にも、自分の殻を破り、学校のイベントやクラブ活動に積極的に参加したいと思っている。

明石高専は単なる学校ではなく、自分の技能を磨き、挑戦を乗り越え、最良の自分になるための機会である。これからの3年間に何が待っているのか楽しみであり、一生懸命努力して目標を達成することに自信を持っている。



留学生活はアニメより面白い

電気情報工学科 3年 TEOH JIA CHI (ジアチ)

こんにちは！ジアチです。日本に来た理由は、ずばりアニメと日本の文化！昔からアニメを見て、日本の文化に興味を持ち始め、ついにその夢を叶えるために日本にやってきました。

僕の興味はプログラミングと物理学です。特に、宇宙の神秘に惹かれています。日本の科学技術を学びたいため、日本にいる3年間、色々な知識を勉強したいです。プログラミングで未来の世界を支える技術を作りたいと思っています。

日本に来て数ヶ月、もうすでにたくさんの日本人と他の留学生の友達ができました。彼らとの交流は、新しい発見の連続で、本当に楽しいです。一緒にいろいろなところへ遊んで、いっぱい思い出を作りました。

日本での留学生活は本当に毎日が新しい冒険の連続です。新しい文化や習慣に触れ、新たな友人と出会い、日々の生活の中で自分自身が成長していることを実感しています。これからもさらに多くのことを学び、経験を積み、成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお祈りします！



Chase Your Dreams

電気情報工学科 3年 BRYAN TAN RAY JUIN (ブライアン)

はじめまして、私はブライアン・タン・レイ・ジュインと申します。マレーシアから来ました。私は自動車の技術と心理学の研究に興味を持っています。そのみならず、私も宇宙に関する研究技術を習うことが好きです。

夢は皆様にとって、何の存在ですか？毎晩寝る時、頭脳が化学物質を調整し、平衡する過程の過程ですか、あるいは資本主義が我々にもものを追いかける非現実的なささめきでしょうか？私にとって、夢は人生の北極星であり、自らの望んでいる将来を導いています。

中学時代私は、初めて日本文化に触れると、たちまちその美しさに深く惹かれました。どんなことがあっても、「日本に留学したい」と自分に言い聞かせていました。その時、心の中に種を蒔き、タイミングを待っていました。そのため、毎日一所懸命に勉強し、日本への留学の資料や奨学金を探し、一つ機会を待ちました。

幸いにも、中学校を卒業後、マレーシア政府の奨学金をもらって日本に留学しました。やっと夢の花を咲かせました。そのおかげで、明石高専で電気情報工学を専攻し、電気電子の基礎を学びました。

従い、夢がない人生は羽がない鳥のようです。鳥は羽のおかげで、境界なしの空において飛べます。人間は夢をなぞって、偉くて良い人生を過ごします。だから、きちんと夢を確認し、将来の負荷を夢に頼みましょう。



留学生紹介

暗闇の中で光を見つける:明石での生活への移行

建築学科 3年 THOON NADI SAN (トーン)

皆さん、はじめまして。私はトーンと申します。ミャンマーから来ました。明石に来る前は、東京の日本語学校で1年間勉強していました。東京での生活はとても便利でした。しかし、ここに来てからは、すべてを一から始めなければなりません。食べ物、勉強、引っ越しに関する多くの問題に直面しました。そして、建築を学び始めると、学ぶべきことが実際よりも難しく感じられ、まるで暗闇の中で一人で立っていて何も見えないような気分になりました。建築を学ぶことは難しいと予想していましたが、実際には日本語で建築を学ぶことは予想以上に困難でした。特に建築の専門用語が難しいです。それでも、明石は住むには素晴らしい環境です。駅が学校に近く、周囲には多くのスーパーや美しい公園があります。また、ミャンマーから来た留学生は私だけですが、ここに来てから孤独を感じたことは一度もありません。国際学生やクラスメートたちはとても親切で友好的で、個人的な問題や勉強、レポートの手助けをしてくれました。彼らにとっても感謝しています。ここに来て約3ヶ月が経ちましたが、まだ勉強に苦労しながらも、少しずつ生活に慣れてきて、全てをうまくまとめようとしています。一方で、ここでの生活をますます楽しむようになり、毎日の生活に安心感を見出すようになりました。もう暗闇の中にいるようには感じません。また、日常生活の中で日本語をもっと使うように努めています。全てがより良くなり、勉強についていけるようになることを願っています。よろしくお祈りいたします。

後援会より

後援会会長挨拶

後援会会長 川中 岳穂 (かわなか たかお)

この度後援会会長を仰せつかりました。ご挨拶を申し上げます。
私は長年、兵庫県の製造メーカーに勤務してきました。明石高専出身の方々と一緒に仕事をしたことがあります。また、高専出身の方がエンジニアとして活躍されているところも見てまいりました。
子供の頃から理科や算数が好きで、自然や技術に興味を持ち、高専進学を選んだ皆さんが、早くから専門知識を身に付け、厳しいトレーニングを積み重ねられてきたからこそ、社会に出て大きく成功されているのだと思います。我が子が高専で学び、鍛えていただいているさまを目の当たりにして、つくづく納得させられました。
明石高専の学生の皆さんには、学びを通じてご自身の“やりたいこと”を見つけ、“できること”を増やし、将来大きく“社会に貢献”されることを願っています。後援会は先生方、学校当局の皆様、ご家族の皆様のお力添えをいただきながら、学生の皆さんがやりがいをもって楽しく学び、充実した学生生活を送れるように支え、応援してまいります。
昨今、物価が高騰していますが、電気料金をはじめとして学習環境にも少なからず影響の出ていることが窺われます。後援会では従来からの支援活動の充実に取り組むとともに、こうした新たな問題への対応も視野に入れながら、後援会費を有効に活用できるように工夫していきたくと考えます。
後援会会員の皆様には引き続きご協力をいただきますようお願いいたします。

学生会より

今年度の学生会活動について

都市システム工学科 3年 西田 美野里 (にしだみのり)

皆さん、こんにちは。今年度の学生会長を務めています、3年都市システム工学科の西田です。いつも、学生会の活動にご協力いただきありがとうございます。

今年度は、20人の新メンバーを迎え入れ、総勢61名で活動をスタートしました。

学生会執行部としての最初の大きなイベントは、6月に開催された明葉祭です。今年度より、文化発表会から明葉祭と名称を変更し、緊湊一番、企画や運営に取り組みました。ご来場いただいた方からは、「全てのレベルが高い」「さすが明石高専」との声を多くいただき、無事成功させることが出来ました。明葉祭に参加した部・同好会・団体の皆さんにとっても、活動のモチベーションに繋がる良い機会になっていれば幸いです。

そして3月には、全国高専交流会の開催を予定しております。本校学生会執行部が主幹校を担当し、運営しています。他高専間の交流をさらに活発なものにし、交流会を通して各高専の執行部の活動が更により良いものになればと考えております。

また、11月に行われるスポーツ大会も、4月より企画を進めております。学生間の繋がりが深まる機会となるよう、執行部一同努めてまいります。

最後になりましたが、私たち学生会執行部は学生の皆さんがより快適な学校生活を送れるよう、サポートしてまいります。現在、目安箱の運用も更に活発になるよう進めておりますので、何か意見や要望などがありましたら、気軽に学生会役員にご相談ください。今年度も、学生会執行部をよろしくお祈りいたします。

校内短信・行事予定他

●校内短信

日程	行事
4/3(水)	入学式・入寮式
4/4(木)	始業式・専攻科オリエンテーション・新入寮生歓迎会
4/5(金)	前期授業開始
4/11(木)	健康診断
4/17(水)	学寮防災訓練
4/24(水)	TOEIC IPテスト
4/27(土)	後援会総会・役員会
5/15(水)	寮祭
6/13(木)	専攻科入試(推薦)
6/22(土)~7/18(木)	保護者懇談会
6/22(土)	明葉祭(文化発表会)
5月~7月	近畿地区高専体育大会
7/17(水)	TOEIC IPテスト(5年生全員)
7/19(金)~7/25(木)	学校見学会
7/29(月)~8/2(月)	前期期末試験
8/3(土)~4(日)	オープンキャンパス
8/8(木)~9/23(月)	夏季休業
8/11(日)	閉寮

●第61回近畿地区高等専門学校体育大会

種目	期日	会場
陸上競技	6/29(土)	紀三井寺公園陸上競技場
バスケットボール	6/29(土)~30(日)	和歌山県立体育館
バレーボール	6/29(土)~30(日)	東和薬品RACTABドーム(門真市)
ソフトテニス	6/29(土)~30(日)	T O A テニスの杜(名張市)
卓球	7/6(土)~7(日)	明石工業高等専門学校体育館
柔道	7/13(土)~14(日)	高砂市総合体育館
剣道	7/14(土)~15(月・祝)	寝屋川市民体育館
硬式野球	5/18(土)~19(日)	メイハンスタジアム(名張市)
サッカー	6/29(土)~7/1(月)	神戸総合運動公園補助競技場・ユニバー記念競技場
ラグビーフットボール	11/3(日・祝)・11/16(土)	親里ラグビー場(天理市)
ハンドボール	6/29(土)~30(日)	生駒市体育協会 滝寺S.C.
テニス	6/22(土)~23(日)	かわベテニス公園(日高町)
バドミントン	6/29(土)~30(日)	舞鶴文化公園体育館
水泳	7/15(月・祝)	舞鶴高専プール

●行事予定

日程	行事
8月~9月	全国高専体育大会 於：北海道地区
9/12(木)~20(金)	補充履修期間
9/17(火)	専攻科入試(学力)
9/21(土)	開寮
9/24(火)	後期授業開始
10/6(日)	近畿地区高専ロボットコンテスト 於：舞鶴文化公園体育館
10/12(土)	寮生体育祭
10/19(土)~20(日)	全国高専プログラミングコンテスト 於：なら100年會館
10/21(月)~25(金)	5年生見学旅行
10/22(火)~23(水)	研修日
11/2(土)~3(日・祝)	全国高専デザインコンペティション 於：阿南高専
11/9(土)~10(日)	高専祭・受験者向け入試説明会
11/11(月)	授業なし
11/12(火)	全校清掃日
11/17(日)	全国高専ロボットコンテスト 於：両国国技館
11/20(水)	全校避難訓練
11/20(水)~21(木)	スポーツ大会
12/12(木)	寮クリスマス会
12/25(水)	閉寮
12/25(水)~1/5(日)	冬季休業
1/5(日)	開寮
1/18(土)	推薦入試
1/25(土)~26(日)	全国高専英語プレゼンテーションコンテスト 於：国立オリンピック記念青少年総合センター
2/3(月)~7(金)	後期期末試験
2/9(日)	学力入試(本試験)
2/17(月)	専攻科特別研究審査発表会
2/17(月)~20(月)	学力補充期間
2/18(火)~19(火)	卒業研究審査発表会
2/21(金)	終業式
2/23(日)	学力入試(追試験)・閉寮
3/20(水・祝)	卒業式・修了式

●部活動指導教員

局	部・同好会	クラブ名	指導教員名		
文化局	部	吹奏楽部	○平野 大向 高田		
		音楽部	○角野 水野		
		茶道部	○東野 北川		
		合唱団 Fons Musicae	○土田 久保田		
		ロボット工学研究部	○森下 関森 野村		
		情報工学研究部	○野村 濱田		
		視覚メディア研究部	○小笠原		
		Web製作研究部	○土田 梶村		
		宇宙工学研究部	○梶村		
		エコランププロジェクト	○田中 大森		
		同好会	棋道同好会	○本塚 松塚	
			ものづくり研究会	○武田	
	E S S		○ハバート		
	D-PRO135°		○本塚 大塚 松宮		
	写真同好会		○鍋島 生田		
	体育局		部	水泳部	○松塚 面田 濱田
				剣道部	○丹下 松宮
		柔道部		○細川 平野	
		空手道部		○東野 久保田	
野球部		○後藤 荒川 マウソエ			
陸上競技部		○田中 大向 梶村 土田			
男子バレーボール部		○森下			
女子バレーボール部		○三好 上野 角野 小西 林			
ハンドボール部		○渡部 穂本 大塚			
男子バスケットボール部		○関森 生田 大城 島田 中西			
女子バスケットボール部		○北川 ハバート			
卓球部		○史 小笠原 周山 本塚			
クライミング部		○平石 工藤			
テニス部		○武内 中川 水野			
バドミントン部		○武田 高田 野村 廣田			
サッカー部		○加藤 國峰 鍋島			
ソフトテニス部		○井上(英) イカネ 大森 櫻井			
同好会	フットサル同好会	○工藤			